

テキスト

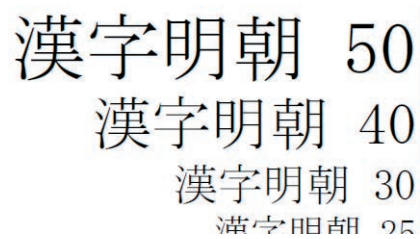
1. 概要.....	3
2. 固定テキストオブジェクト	4
3. テキスト変数オブジェクト.....	6
3-1. オブジェクト概要	6
3-2. データマッピング	6
4. フォント属性.....	8
4-1. 種別	8
4-2. 色	9
4-3. サイズ	10
5. テキストの位置合わせ.....	11
5-1. 固定テキストの位置合わせ	11
5-2. テキスト変数の位置合わせ	11
6. 文字間隔・行間隔.....	13
6-1. 文字間隔	13
6-2. 行間隔	13
7. 自動改行.....	15
8. 流し込み.....	16
行間隔固定	16
一行で出力	16
均等割付	17
位置合わせを有効にする	17
9. 改行設定.....	18
行末にぶら下げる文字	18
ワードラップ	19
指定した文字の次で改行 / 指定した文字の前で改行	19
10. データの書式指定.....	20
10-1. データの編集.....	20
10-2. 領域外データの削除.....	20
11. データによって背景色・フォント色を変える	22
条件を設定する	22
比較と色の反映	24
12. 複数行テキストのリスト形式出力.....	26
テキスト変数の位置合わせについて	26
複数行のテキストデータをリスト形式で出力する	26
各行ごとにテキストの位置合わせを有効にする	28
各行ごとにテキストを流し込む	28
出力位置の補正	29
13. 重複データ非表示.....	31
13-1. 重複データ非表示機能とは	31
13-2. 設定方法	31

14. 非表示	33
14-1. 非表示機能とは.....	33
14-2. 設定方法.....	33

1. 概要

Create!Form では帳票上に固定もしくは動的にテキストを描画することができます。

図：テキスト

The figure displays four lines of text in a 'Hanazonari' (漢字明朝) font style, each followed by a size number. The text is right-aligned. The first line is '漢字明朝 50' in the largest size. The second line is '漢字明朝 40'. The third line is '漢字明朝 30'. The fourth line is '漢字明朝 25' in the smallest size. The text is black on a white background.

テキスト描画のためのオブジェクトとしては以下のものが用意されています。

- ・ 固定テキストオブジェクト
- ・ テキスト変数オブジェクト

テキストは文言によってフォントサイズや色、文字間隔などを細かく指定することができます。

2. 固定テキストオブジェクト

固定テキストオブジェクトは、固定の文言を帳票上に描画するオブジェクトです。

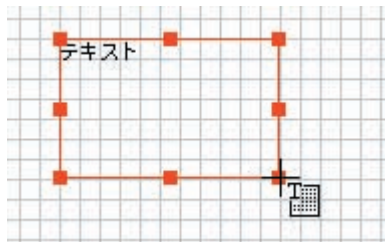
固定テキストオブジェクトを帳票上に配置すると、全てのページに固定テキストオブジェクトの文言が出力されます。

Form エディタ画面上で固定テキストオブジェクトを定義する場合は、オブジェクトツールバーにある「テキスト」アイコンをクリックし、帳票領域上にドラッグ&ドロップして配置します。

図：「テキスト」アイコン

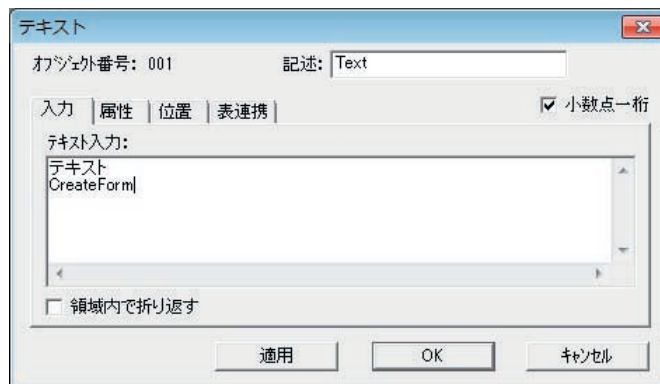


図：固定テキストを配置



「テキスト」と表示されているものが帳票上に出力される文言です。これを変更する場合は、オブジェクトのプロパティで「入力」タブにある「テキスト入力」欄を変更してください。

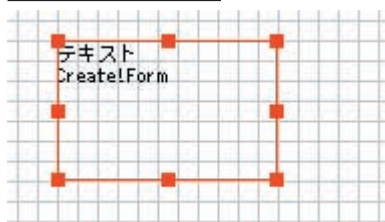
図：テキスト入力



ここでは改行を含む複数行のテキストを入力することも可能です。

「適用」ボタン、または「OK」ボタンをクリックすると画面上のオブジェクト表示にも反映されます。

図：変更が反映される



実際の帳票上には設定したテキストがそのまま描画されます。

図：帳票上の描画



3. テキスト変数オブジェクト

3-1. オブジェクト概要

テキスト変数オブジェクトは、入力データから取得した可変的なデータを帳票上にテキストとして描画するオブジェクトです。

Form エディタ画面上でテキスト変数オブジェクトを定義する場合は、オブジェクトツールバーにある「テキスト変数」アイコンをクリックし、帳票領域上にドラッグ&ドロップして配置します。

図：「テキスト変数」アイコン



3-2. データマッピング

テキスト変数オブジェクトに出力するデータは入力データ（CSV ファイルなど）から取得します。どのようにデータを取得するかは、Datamap エディタでデータマッピングを行うことにより定義します。

データマッピングの詳細については Design マネージャのメニュー「ヘルプ」-「オンラインマニュアル」から「3. 機能リファレンス」-「3.2 エディタの操作」-「Datamap エディタ」をご覧ください。

ここでは簡単に CSV データマップの例を用いて解説します。

テキスト変数は、1 項目で複数行をマッピングすることができます。

図：テキスト変数のマッピング

変数名(V)	種別(T)	属性(Z)	行(L)	項目番号(I)	行数(P)	項目数
TEXT000	テキスト	左	1	2	12	1
変数名	A1048001	林 一郎	役員	代表取締役	1971	
	A1048002	大池 信幸	役員	常務取締役	1974	
	A1048005	小山 徹也	役員	専務取締役	1971	
	A1048003	洞 雅義	役員	取締役	1971	
	A1048011	渡辺 篤	役員	取締役	1971	
	A1047002	山田 竜雄	総務	部長	1972	
	A1047004	山口 正弘	人事	部長	1972	
	A1047006	山形 俊二	経理	部長	1972	
	A1048001	三輪 努	第1分社	部長	1973	
	A1048005	三木 勝	第2分社	部長	1973	
	A1048006	三石 英雄	管理	部長	1973	
	A1048007	梅井 隼	企画	部長	1973	
	A1048008	梅井 菊江	総務	副部長	1973	
	A1049002	南 伊代	人事	副部長	1974	
	A1049003	佐藤 登	経理	副部長	1974	
	A1050004	佐々木 真理奈	第1分社	副部長	1975	
	A1051003	根岸 利明	第2分社	副部長	1983	
	A1051011	今西 光晴	管理	副部長	1982	
	A1051012	本木 九	企画	副部長	1985	

帳票上にはマッピングされた行数分のテキストデータが CSV ファイルから取得されて描画されます。

図：帳票上の描画

票池山卷渡田口形輪木石井	一信徹雅篤竜正俊努勝英雄	郎幸也義童弘二
帳大洲鹿山山山三三三三三三		

4. フォント属性

テキストのフォントは以下の項目を自由に変更することができます。

- ・ 種別
- ・ 色
- ・ サイズ

4-1. 種別

指定可能なフォント種別は以下の 3 種類に分かれています。

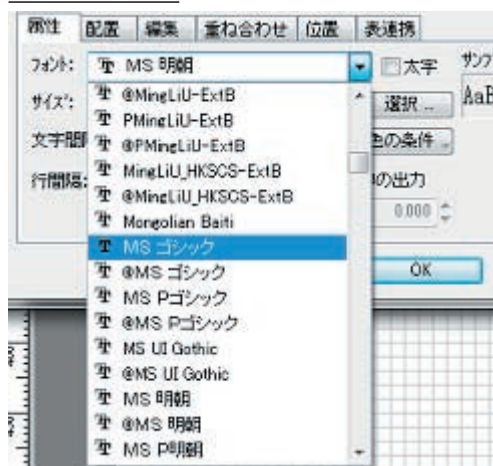
- ・ TrueType フォント
- ・ PostScript フォント
- ・ PDF 埋め込み用フォント

それぞれ出力する帳票の用途によって使用可能なフォントが変わります。

フォント種別ごとの特徴・用途など、詳細については Design マネージャのメニュー [ヘルプ] - [オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.6 フォントの指定・多国語出力」-「フォント」をご覧ください。

Form エディタ上では、テキストのプロパティ画面の [属性] タブにある [フォント] のリストから選択することができます (固定テキスト・テキスト変数共通) 。

図：フォント選択



また、TrueType フォントの太字スタイルを使用することができます。

TrueType フォントを太字で描画したい場合は、[フォント] リストの右側にある [太字] のチェックを有効にしてください。

図：太字



<< 注意 >>

FormPrint で太字を使用する場合は、「FutoMinA101-Bold」や「FutoGoB101-Bold」等の PostScript フォントが出力先のプリンタに搭載されている必要があります。

4-2. 色

文字の色は、Form エディタのカラーパレットに登録されている色であれば自由に指定することができます。

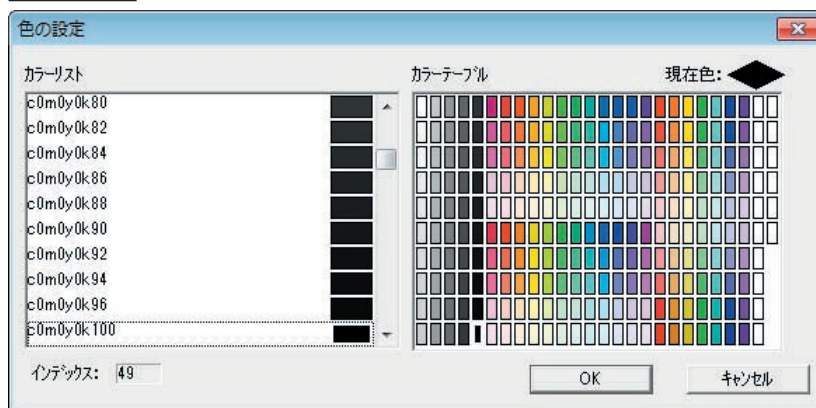
カラーパレットについては Design マネージャのメニュー [ヘルプ]-[オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.2 エディタの操作」-「Form エディタ」をご覧ください。

Form エディタ上では、テキストのプロパティ画面の [属性] タブにある [色] 欄で指定することができます（固定テキスト・テキスト変数共通）。色を変更する場合は [色] 欄の右側にある [選択] ボタンをクリックします。

図：色



図：色の設定



上図の設定画面が表示されるので、カラーテーブルの中から使用する色を選択してください。

設定したフォント色は、Form エディタ上での表示にも反映されます。

4-3. サイズ

フォントサイズは、0.001 ～ 999.999 ポイントの間で自由に指定することができます。
(ただし FormPrintStage では、1 以下の値が指定された場合、1 ポイントで描画されます)

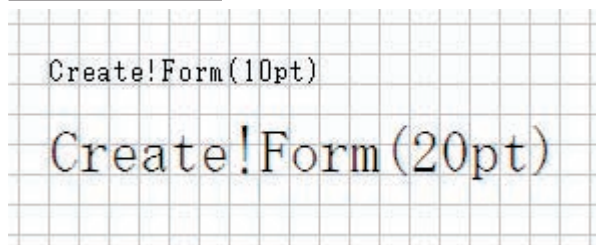
Form エディタ上では、テキストのプロパティ画面の [属性] タブにある [サイズ] 欄で指定することができます (固定テキスト・テキスト変数共通)。

図：サイズ



設定したフォントサイズは、Form エディタ上での表示にも反映されます。

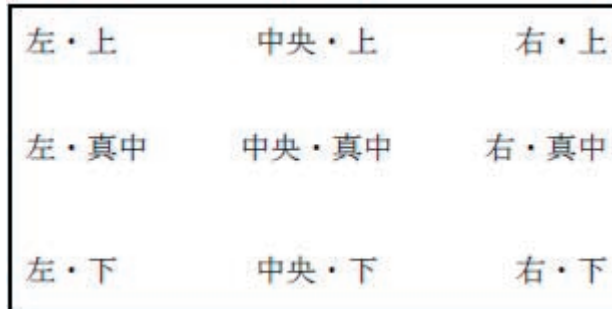
図：変更が反映される



5. テキストの位置合わせ

テキストは各オブジェクトの描画領域の範囲内で右寄せや中央配置など、テキストの配置を指定することができます。

図：テキストの配置



横方向の配置は「左・中央・右・ジャスティファイ」の4種類から指定することができます。また、縦方向の配置は「上・真中・下」の3種類から指定することができます。

「ジャスティファイ」は、テキスト変数オブジェクトで欧文 PS フォントを使用するときのみ指定することができます。固定テキストオブジェクトや日本語フォントでは指定できません。ジャスティファイを指定した場合、1行の両端に揃えるように単語と単語の間隔が自動調整されます。

Form エディタ上では、固定テキストとテキスト変数によって設定方法が変わります。

5-1. 固定テキストの位置合わせ

固定テキストの場合、プロパティ画面の「属性」タブにある「位置合わせ」欄で指定することができます。

図：位置合わせ



5-2. テキスト変数の位置合わせ

テキスト変数の場合、プロパティ画面の「配置」タブにある「位置合わせ」欄で指定することができます。

図：位置合わせ



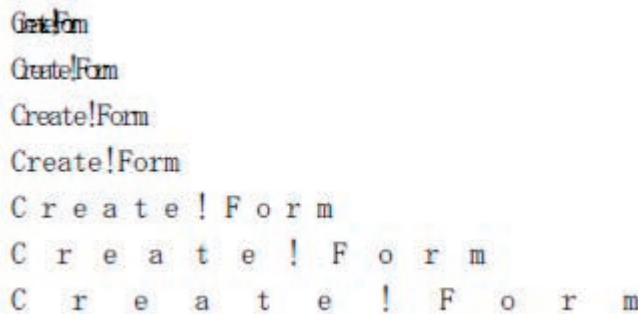
位置合わせの指定は「自動改行」機能と組み合わせることができませんのでご注意ください。
自動改行機能については「7. 自動改行」をご覧ください。

6. 文字間隔・行間隔

6-1. 文字間隔

固定テキストとテキスト変数では、文字と文字の間隔を -999.999 ～ 999.999 ポイントの範囲内で指定することができます。値が大きいほど文字と文字が離れて描画されます。マイナスの値を指定した場合は、値が大きくなるほど文字と文字が重なり合って描画されます。

図：文字間隔



Create!Form
Create!Form
Create!Form
Create!Form
Create!Form
Create!Form
Create!Form

Formエディタ上では、テキストのプロパティ画面の「属性」タブにある「文字間隔」欄で指定することができます（固定テキスト・テキスト変数共通）。

図：文字間隔の設定



フォント: MS 明朝
サイズ: 10.000
文字間隔: 0.000
行間隔: 10.000

6-2. 行間隔

複数行のデータがマッピングされている場合、行と行の間隔を -999.999 ～ 999.999 ポイントの範囲内で指定することができます。値が大きいほど行と行が離れて描画されます。マイナスの値を指定した場合は、値が大きくなるほど行と行が重なり合って描画されます。

図：行間隔



帳票 一郎	帳票 一郎	帳票 一郎	帳票 一郎
大池 信幸	大池 信幸	大池 信幸	大池 信幸
小山 徹也	小山 徹也	小山 徹也	小山 徹也
洲巻 雅義	洲巻 雅義	洲巻 雅義	洲巻 雅義
鹿渡 篤	鹿渡 篤	鹿渡 篤	鹿渡 篤
山田 竜	山田 竜	山田 竜	山田 竜

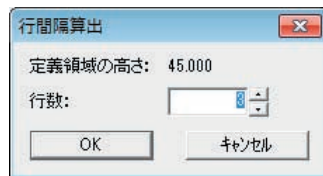
Formエディタ上では、テキストのプロパティ画面の「属性」タブにある「行間隔」欄で指定することができます（固定テキスト・テキスト変数共通）。

図：行間隔の設定



オブジェクトの高さとそこに出力したい行数から自動的に行間隔を算出させる場合は、[行間隔算出] ボタンをクリックします。次の画面が表示されるので、出力したい行数を 1 ～ 999 の範囲内で指定します。

図：行間隔算出

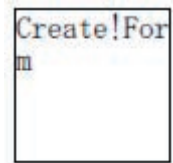


たとえばオブジェクト定義領域の高さが 60 ポイントの場合、3 行と指定すると、 $60/3 = 20$ ポイントが [行間隔] 欄に自動的に設定されます。

7. 自動改行

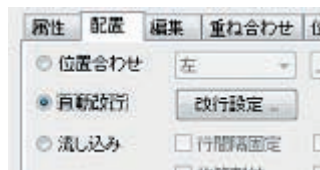
テキスト変数の場合、オブジェクトの領域幅に合わせて自動的にテキストを折り返して描画することができます。この機能を「自動改行」機能といいます。

図：領域幅に合わせてテキストを折り返す



Formエディタ上では、プロパティ画面の「配置」タブにある「自動改行」を選択すると自動改行機能が有効になります。

図：自動改行



自動改行機能は位置合わせの指定と組み合わせることができませんのでご注意ください。
位置合わせ機能については「5. テキストの位置合わせ」をご覧ください。

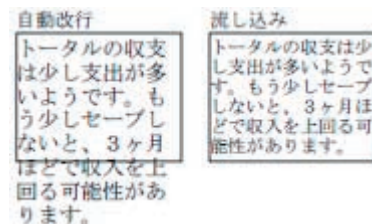
<< 注意 >>

FormPrintStageのフォント出力はWindowsフォントに依存しているため、半角文字を使用した場合、日本語縦書きフォントの表示の一部がPostScriptフォントと異なります。それに伴い、自動改行の出力結果も他のランタイムと異なることがあります。

8. 流し込み

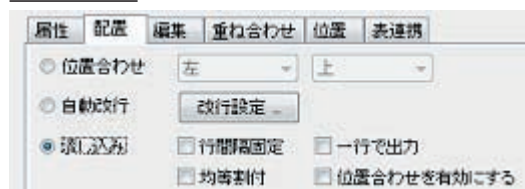
テキスト変数の場合、オブジェクトの領域幅と高さに合わせて自動的にテキストを折り返し、かつ領域内にテキストデータが収まるようにフォントサイズや行間隔を自動的に調整して描画することができます。この機能を「流し込み」機能といいます。

図：領域内にテキストを収める



Formエディタ上では、プロパティ画面の〔配置〕タブにある〔流し込み〕を選択すると流し込み機能が有効になります。

図：流し込み



流し込み機能には、4つのオプション機能があります。これらは組み合わせて指定することが可能です。それぞれの機能を有効にするためには画面上で該当の設定のチェックを有効にしてください。

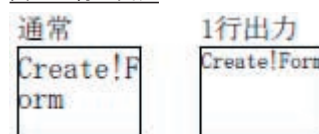
行間隔固定

〔属性〕の〔行間隔〕で指定されている行間隔を使用して描画を行います。この設定を使用しない場合は、行間隔は自動的に調整されます。

一行で出力

必ずテキストデータを一行で出力するようにします。その場合、オブジェクトの領域幅に収まるようにフォントサイズが自動的に調整されます。この設定を使用しない場合は、自動的に適切な位置で改行が行われて描画されます。

図：一行で出力



均等割付

オブジェクトの領域幅の両端にテキストデータが揃うように文字間隔が自動的に調整されて描画されます。

図：均等割付



位置合わせを有効にする

位置合わせの設定と併用することができるようになります。

流し込み機能と位置合わせの設定を組み合わせる場合の出力位置は以下のようになります。

[左・中央・右]

変数領域の水平方向に対する出力位置です。日本語横書きフォントの場合は、変数領域の幅に満たないデータの場合に有効となります。

[上・真中・下]

変数領域の垂直方向の出力位置です。日本語縦書きフォントの場合は、変数領域の幅に満たないデータの場合に有効となります。

<< 注意 >>

FormPrintStage のフォント出力は Windows フォントに依存しているため、半角文字を使用した場合、日本語縦書きフォントの表示の一部が PostScript フォントと異なります。それに伴い、流し込みの出力結果も他のランタイムと異なることがあります。

<< 注意 >>

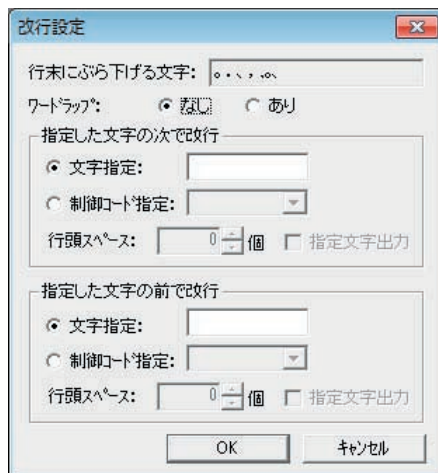
流し込み機能を有効にすると、テキストデータの末尾の半角スペース（連続入力したものも含みます）は削除されて出力されます。

9. 改行設定

テキスト変数の自動改行および流し込み機能を使用する場合、改行に関する細かい設定を行うことができます。

改行に関する設定を行う場合は、プロパティ画面の[配置]タブで[自動改行]もしくは[流し込み]を選択した状態で[改行設定]ボタンをクリックします。下図の画面が表示されますので、設定を行います。

図：改行設定

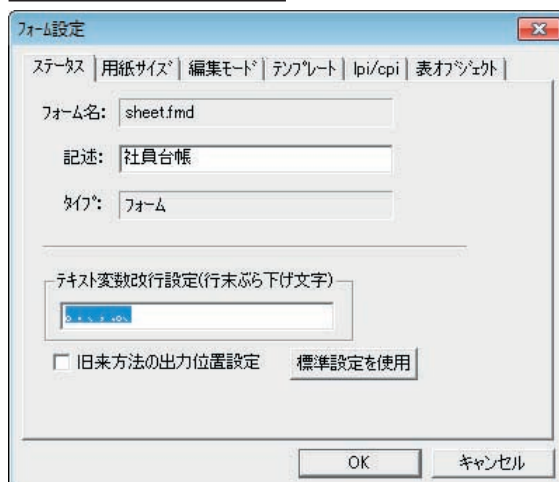


行末にぶら下げる文字

たとえば「、」や「。」のように行の先頭に来て欲しくない文字は「行末にぶら下げる文字」として指定しておくことで、行末に押し込んで描画されるようになります。

この設定はオブジェクトごとの設定ではなく、フォーム全体の設定として登録します。設定を行う場合は、Formエディタのメニューの[ファイル]-[フォーム設定]をクリックし、表示されるフォーム設定ダイアログの[ステータス]タブで設定します。

図：行末ぶら下げ文字の設定



ワードラップ

英単語が自動的な改行によって分割されてしまわないように改行位置の調整を行うようにするための指定です。

指定した文字の次で改行 / 指定した文字の前で改行

特定の文字の前後で改行を行うための指定です。改行を行うための文字を「改行指定文字」といいます。

改行指定文字は「文字指定」もしくは、「制御コード指定」のどちらかで指定します。

「文字指定」の場合は、入力欄に改行指定文字を入力します。ここでは複数の文字（16文字まで）を入力することができますが、その場合はそれぞれの文字が個別に改行指定文字として扱われます。たとえば「、。」と入力した場合は「、」と「。」でそれぞれ改行が行われます。

図：指定文字での改行

トータルの収支は
少し支出が多いよ
うです。
もう少しセーブし
ないと、
3ヶ月ほどで収入
を上回る可能性が
あります。

利用できる文字は以下の文字となります。

- ・半角文字、全角文字
- ・アスキー制御コード：0x01～0x1F、0x7F（0x0A、0x0C、0x0D、0x1Aは除く）

「制御コード指定」の場合は、制御コード一覧から改行指定文字として利用するコードを選択します。「制御コード指定」で指定できるコードは1文字のみとなります。

「指定文字出力」のチェックを有効にすると改行指定された文字もデータとして出力します。逆にこのチェックが有効でない場合は、改行指定された文字は帳票上に出力されませんのでご注意ください。

「行頭スペース」には最初の行と改行後の行頭に入れるスペースの数を指定します。

図：行頭スペースを指定した場合の出力例

トータルの収支
は少し支出が多い
ようです。
もう少しセーブ
しないと、
3ヶ月ほどで収
入を上回る可能性
があります。

10. データの書式指定

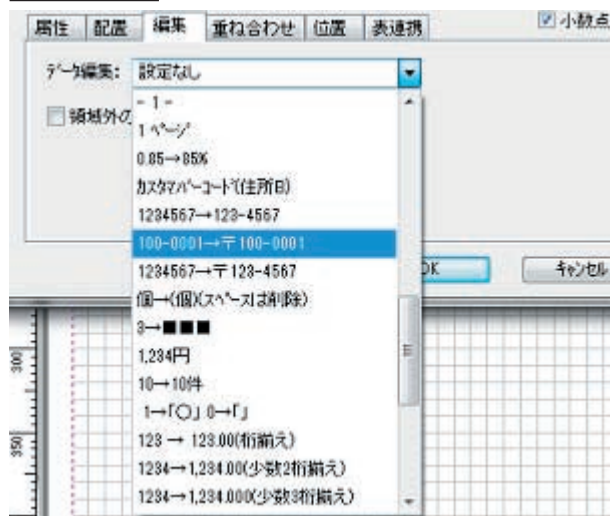
10-1. データの編集

テキスト変数の場合、マッピングされた出力データを加工して出力することができます。たとえば、「1234567890」という数値データを「1,234,567,890」のように3桁カンマ区切り形式で出力させるようなことができます。あるいは氏名の末尾に「様」を付加して出力するといったことも可能です。

このようなデータの加工・書式指定は「データ編集」という機能で実現できます。データ編集機能の詳細についてはDesignマネージャのメニュー[ヘルプ]-[オンラインマニュアル]から「3. 機能リファレンス」-「3.4 集計値の表示とデータ編集」-「データ編集」をご覧ください。

Formエディタ上では、テキストのプロパティダイアログの[編集]タブにある[データ編集]プルダウンで指定することができます。

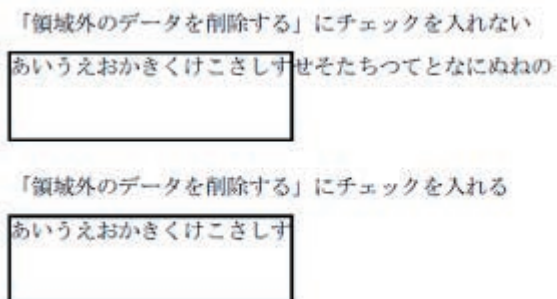
図：データ編集



10-2. 領域外データの削除

テキスト変数の場合、変数の定義領域からはみ出したデータを表示しないように設定することができます。

図：領域外データの削除



設定はFormエディタ上のテキスト変数プロパティダイアログから行います。[編集]タブにある「領域外のデータを削除する」チェックボックスで設定します。

図：「領域外のデータを削除する」チェックボックス



11. データによって背景色・フォント色を変える

テキスト変数では、ある指定の条件を満たす場合の背景色とフォント色を設定することができます。たとえば、データが負の数の場合に表示を赤色にするなどの設定を行うことができます。

設定は、

1. どのデータが
2. どんな条件の時に
3. どの色で表示するか

で行います。

1. どのデータが … 条件判別の対象となるデータ

条件判別の対象となるデータは以下の2種類となります。

- ・条件を設定するテキスト変数自身のデータ
- ・同じ帳票フォーム上に定義されている他のテキスト変数のデータ

2. どんな条件の時に … 条件1・条件2

一つのテキスト変数に対し、2つの条件を設定することができます。

それぞれの条件は、[または]、[かつ]で結合します。

条件には、判別値（数字、文字列）と判別条件を設定します。

判別条件は、以下の8種類です。

- ・等しい（文字列） ・異なる（文字列）
- ・等しい（数値） ・異なる（数値）
- ・より大きい（数値） ・より小さい（数値）
- ・以上（数値） ・以下（数値）

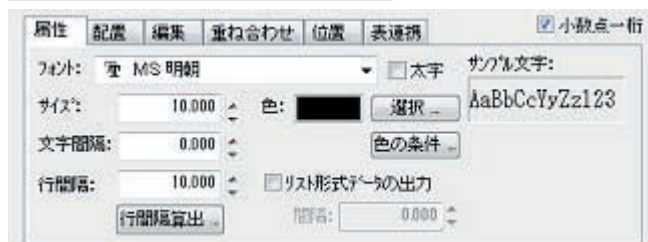
3. どの色で表示するか … 条件を満たした際の色（条件の色）

条件を満たした場合に反映される色を選択できます。

条件を設定する

背景色とフォント色の条件設定は、Formエディタのテキスト変数プロパティダイアログから行います。

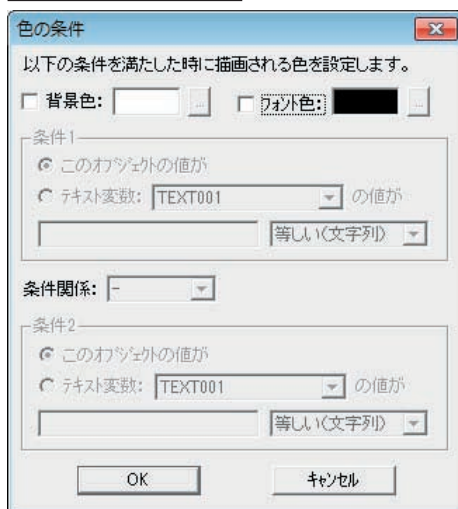
図：テキスト変数プロパティダイアログ



[色]で設定されている色が条件を設定していない場合のフォント色です。

条件の設定は、[色の条件]ボタンをクリックし、[色の条件ダイアログ]より行います。

図：色の条件ダイアログ



色の条件設定を有効にする

背景色のチェックボックスをチェックすることにより、このテキスト変数に条件を満たした場合の背景色を設定することが出来ます。同様にフォント色のチェックボックスをチェックすることにより、このテキスト変数に条件を満たした場合のフォント色を設定することが出来ます。

背景色・フォント色を設定する

〔選択〕ボタンより色を選択します。

カラーパレットについては、Design マネージャのメニュー〔ヘルプ〕-〔オンラインマニュアル〕から「3. 機能リファレンス」-「3.2 エディタの操作」-「Form エディタ」をご覧ください。

条件 1 を設定する

条件1は、色のチェックボックスをチェックすることにより設定することが可能となります。

・比較対象を設定する

以下の2種類より選択します。

〔このオブジェクトの値が〕

条件の比較対象がこのオブジェクトの値となります。

〔テキスト変数：***の値が〕

条件の比較対象が、コンボボックスで選択したテキスト変数の値となります。

・判定値を設定する

エディットボックスに、比較対象のデータと比較する判定値を入力します。

入力できる値は以下の通りです。

文字列：64 バイト

数値：15 桁（うち小数点以下は3桁まで）

条件種別で***（数値）を選択した場合は、半角数字以外を設定することはできません。

- ・条件種別を設定する
以下の8種類より選択します。

[等しい (文字列)]

比較対象のデータと判定値が文字列として等しい場合に、条件の色が有効になります。

[異なる (文字列)]

比較対象のデータと判定値が文字列として異なる場合に、条件の色が有効になります。

[等しい (数値)]

比較対象のデータと判定値が数値として等しい場合に、条件の色が有効になります。

[異なる (数値)]

比較対象のデータと判定値が数値として異なる場合に、条件の色が有効になります。

[より大きい (数値)]

比較対象のデータが判定値と比較して数値として大きい場合に、条件の色が有効になります。

[より小さい (数値)]

比較対象のデータが判定値と比較して数値として小さい場合に、条件の色が有効になります。

[以上 (数値)]

比較対象のデータが判定値と比較して数値としてその値を含めて大きい場合に、条件の色が有効になります。

[以下 (数値)]

比較対象のデータが判定値と比較して数値としてその値を含めて小さい場合に、条件の色が有効になります。

条件関係を設定する

条件2を設定する場合に設定します。

[-]の状態では、条件2は設定されません。

[かつ]、[または]を選択して、条件1と条件2の関係を設定します。

条件2を設定する

条件2は、条件関係を[かつ]、[または]にすることにより、設定することが可能となります。
設定内容は、条件1と変わりません。

比較と色の反映

比較対象データが1行か複数行かで、条件の色が反映する範囲が以下のように変わります。

- ・比較対象データが[このオブジェクトの値が]の場合
各行で条件の色が反映されます。

例) 設定

通常のフォント色 : 黒

条件のフォント色 : 赤

判定値 : AAAAA

条件種別 : 等しい (文字列)

比較対象データ (＝条件を設定したテキスト変数のデータ)

AAAAA ← 条件を満たすため、条件の色で出力される

BBBBB ← 条件を満たさないため、通常の色で出力される

AAAAA ← 条件を満たすため、条件の色で出力される

・比較対象データが他のテキスト変数の値で、1行の場合

条件の色は、設定したテキスト変数に割り付けられたデータすべてに反映されます。

例) 設定

＜上記設定と同じ＞

比較対象データ 条件を設定したテキスト変数のデータ

AAAAA あああああ ← 条件を満たすため、条件の色で出力される

いいいいい ← 比較対象が1行のため、データすべてに

うううう ← 条件の色が反映される

・比較対象データが他のテキスト変数の値で、複数行の場合

条件の色は、設定したテキスト変数に割り付けられたデータのうち、比較対象データの行と同じ行のデータに反映されます。

例) 設定

＜上記設定と同じ＞

比較対象データ 条件を設定したテキスト変数のデータ

AAAAA あああああ ← 条件を満たすため、条件の色で出力される

BBBBB いいいいい ← 条件を満たさないため、通常の色で出力される

CCCCC うううう ← 条件を満たさないため、通常の色で出力される

AAAAA えええええ ← 条件を満たすため、条件の色で出力される

12. 複数行テキストのリスト形式出力

テキスト変数の位置合わせについて

テキスト変数の描画位置合わせは、プロパティダイアログの「配置」の「位置合わせ」より行うことが可能です。フォントの横書き、縦書き共に「左-中央-右」、「上-真中-下」で、出力位置設定することが出来ます。

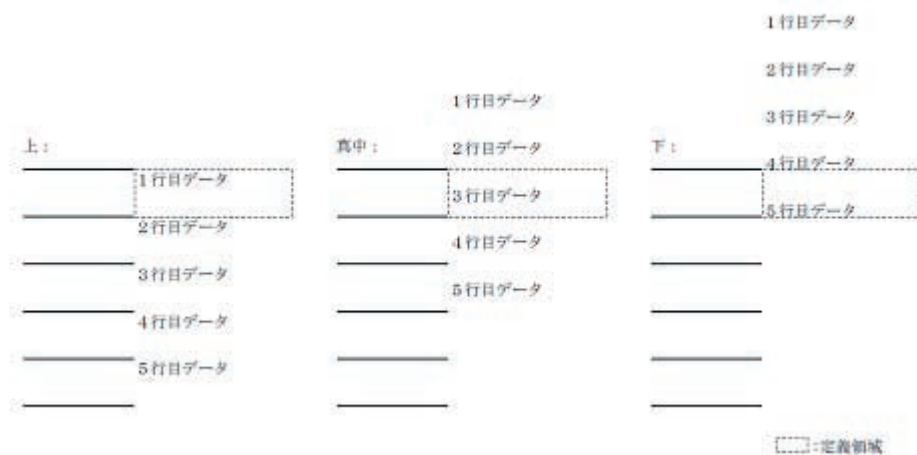
位置合わせ設定は、出力データが1行の際には以下のように指定どおりの出力となります。

図：出力



しかし、出力データが複数行の場合、1行ごとではなくデータ全体に対して位置合わせが適用されるため、出力位置がずれてしまうことがあります。

図：出力結果



このような現象を回避するために、テキスト変数には、「リスト形式データの出力」という機能があります。

複数行のテキストデータをリスト形式で出力する

各行ごとにテキスト変数プロパティを反映させる

テキストデータの各行が1項目を表すような場合、行ごとに位置合わせや流し込みといったテキスト変数の「配置」プロパティを反映させて出力を行うことができます。

この設定を行うには、テキスト変数オブジェクトのプロパティダイアログ上の「リスト形式データの出力」を設定します。

図：プロパティダイアログ



<< 注意 >>

テキスト変数オブジェクトを定義する際には、1行分のテキストデータを出力する領域を指定してください。次行以降のデータはこの領域を基にして下方向、もしくは横方向に出力が行われます（※）。複数行分の領域を定義した場合には、期待した出力を行うことができません。

図：テキスト変数の定義領域

■ 正しい定義



■ 適切ではない定義



※欧文フォント、もしくは日本語横書きフォントが指定されている場合には、テキストデータはテキスト変数定義領域を基準にして垂直方向に上から下に出力されます。また、日本語縦書きフォントが指定されている場合には、テキスト変数定義領域を基準にして水平方向に右から左に出力されます。

データマッピングの際には、「リスト形式データの出力」の設定を行ったテキスト変数を複数行のデータに対してマッピングします。

図：データマッピング

変数名(V)	種類(T)	属性(Z)	行(L)	列(C)	行数(P)	長さ
TEXT000	テキスト	左	1	1	5	21
変数名	1行目のテキストです 2行目のテキストです 3行目のテキストです 4行目のテキストです 5行目のテキストです					
TEXT000						

各行ごとにテキストの位置合わせを有効にする

テキスト変数の〔配置〕プロパティで設定された〔位置合わせ〕の指定が各行ごとの出力に反映されます。この設定は、垂直方向の出力位置を行ごとに反映させる場合に有効です。

次の例は、〔位置合わせ〕に水平方向の出力位置が“中央”、垂直方向の出力位置が“真中”が設定されている場合の出力例です。

図：テキスト変数の設定



図：出力例

位置合わせ：中央/真中

縦書きフォント

5 行 目 の テ キ ス ト デ ー タ で す。	4 行 目 の テ キ ス ト デ ー タ で す。	3 行 目 の テ キ ス ト デ ー タ で す。	2 行 目 の テ キ ス ト デ ー タ で す。	1 行 目 の テ キ ス ト デ ー タ で す。
--	--	--	--	--

横書きフォント

1 行 目 の テ キ ス ト デ ー タ で す。
2 行 目 の テ キ ス ト デ ー タ で す。
3 行 目 の テ キ ス ト デ ー タ で す。
4 行 目 の テ キ ス ト デ ー タ で す。
5 行 目 の テ キ ス ト デ ー タ で す。

各行ごとにテキストを流し込む

テキスト変数の〔配置〕プロパティで設定された〔流し込み〕の指定が各行ごとの出力に反映されます。

この他にも、〔流し込み〕のオプション設定（〔行間隔固定〕、〔一行で出力〕、〔均等割付〕、〔位置合わせを有効にする〕）も行ごとの出力に反映させることができます。

テキスト変数の〔流し込み〕設定については『自動改行 / 流し込み』を参照してください。

次の例は、〔流し込み〕、〔一行で出力〕、〔均等割付〕、〔位置合わせを有効にする〕を設定した場合の出力例です。

図：テキスト変数の設定

図：出力例

流し込み/1行で出力/均等割付/位置合わせ：中央/真中

縦書きフォント

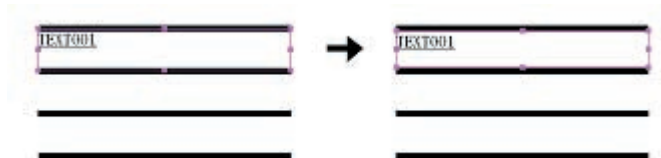
横書きフォント

出力位置の補正

一行ごとに罫線が引かれている場合など、その線の太さによりテキスト変数の出力位置をずらしたいことがあります。

この場合、下図のようにテキスト変数の定義領域の上下を多少縮めて定義すると、罫線と重ならずに表示できます。

図：テキスト変数の定義領域



しかし、この状態で上記「リスト形式データの出力」を行うと、テキスト変数の出力位置がずれてしまいます。

図：出力結果



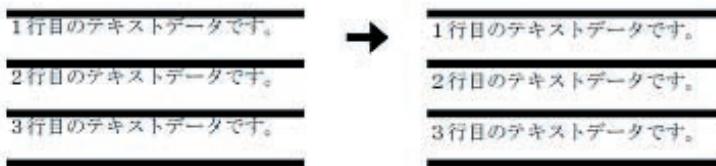
そのような場合、[間隔] を設定することによりテキストの描画位置を微調整してずれることなく出力することが可能です。

Form エディタ上では、プロパティ画面の [属性] タブにある [リスト形式データの出力] 下の [間隔] で設定を行います。[間隔] として入力可能な値は 0 ～ 999.999 です。

図：プロパティダイアログ



図：[間隔] を設定した出力結果



13. 重複データ非表示

13-1. 重複データ非表示機能とは

重複データとは、帳票出力時に連続して出力される同一データを示します。重複データ非表示機能を使用することによって、重複したデータの1レコード目のみを表示し、残りのレコードを非表示にすることができます。

重複データ表示

月日	行先	交通機関
7月9日	佐野工業	JR
7月9日	佐野工業	JR
7月9日	佐野工業	JR
7月11日	本社	営団
7月11日	本社	営団
7月14日	自宅	京王

重複データ非表示

月日	行先	交通機関
7月9日	佐野工業	JR
7月11日	本社	営団
7月14日	自宅	京王

重複データがページをまたいで出力される場合は、重複データ非表示に設定されていてもページの先頭にはデータが必ず出力されます。

1 ページ目

月日	行先	交通機関
7月15日	中野事業所	JR
7月16日	あいうえ生命	小田急

2 ページ目

月日	行先	交通機関
7月16日	あいうえ生命	小田急
7月17日	西部システムズ	西部

13-2. 設定方法

Datamap エディタ上で重複データを非表示設定するテキスト変数を選択し、ダイアログバーの”重複表示”コンボボックスから”非表示”を選択してください。

図：重複表示設定コンボボックス



<< 注意 >>

重複データの表示・非表示は、テキスト変数にのみ設定可能となりますのでご注意ください。

14. 非表示

14-1. 非表示機能とは

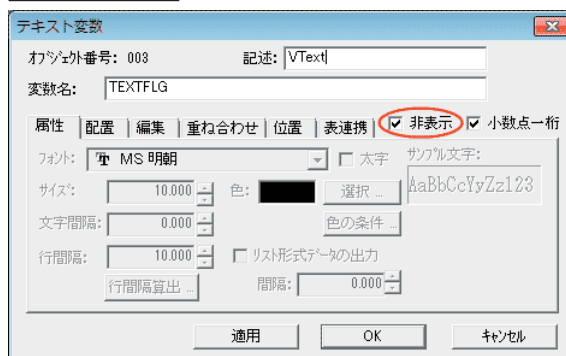
非表示機能とは、配置したテキスト変数オブジェクトを帳票上に表示しない機能です。

この機能は、他のオブジェクトの表示を制御するために配置した変数を帳票上に出力しないために使用します。たとえば、色の条件機能の条件となる変数を配置したいときなどに使います。

14-2. 設定方法

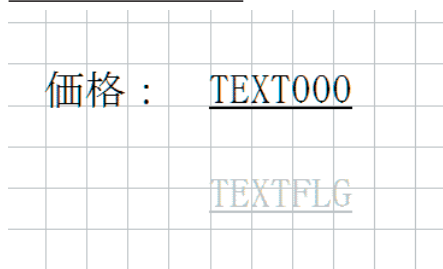
テキスト変数プロパティダイアログの「非表示」チェックボックスを有効にします。有効にすることにより、Form エディタのビュー上では変数名が灰色で表示されます。

図：非表示の設定



以下の図では、テキスト変数オブジェクト“TEXTFLG”を非表示設定しています。

図：テキスト変数の配置



Create!Form

テキスト 第 4 版

発行日
発行者

2015 年 2 月
インフォテック株式会社
〒 160-0023 東京都新宿区西新宿 7-5-25